

第3学年 日本語学級「ちいちゃんのかげおくり」(オンライン授業)

トピックのねらい	○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増やし、話や文章の中で使うことができる。
日本語の目標	○「お母さんの気持ちは、…だと思ひます。なぜなら、～だからです。」 「〇〇さんの意見と同じです。」／「私は、〇〇さんとは違ひて、…だと思ひます。なぜなら、～だからです。」という言葉を使ひて、登場人物の気持ちを表現することができる。
関連	教科・単元 国語科「ちいちゃんのかげおくり」A 国語科「修飾語を使ひて書こう」B
	くらし・行事
主な学習活動	① 音読劇をする。 ② ちいちゃんへの平和宣言を書く。

教材・教具：教科書・ノート・国語辞典・ホワイトボード・白紙

授業展開

時間	学習活動	指導のポイント 支援「〇日本語 ◇教科 *バイカルチュラル視点」	関連
1	1 8月15日が何の日か考える。	◇この日に戦争が終わったこと、第二次世界大戦によってたくさんの方が亡くなったことを伝える。 *マニラでも日本とアメリカの軍が戦って、たくさんの方が苦しんだ話を伝える。	A
	音読劇でかげおくりをしてみよう。		
	2 音読(p.12~16)する。 ① 戦争について考える。 ② 第一場面の範読を聞く。 ③ 言葉の意味を確かめる。 ・つぶやく(p.12) ・かげおくり(p.12) ・かげぼうし(p.13) ・まばたき(p.14) ・たすき(p.15) ・日の丸(p.16) ・いくさ(p.16) ・ばんざい(p.16) ・しょういだん(p.16)	◇物語の時代背景を理解してもらうために、76年前の戦争について何か知っていることがあるか聞き、戦争の動画を見せる。 ○教科書に読み仮名を書かせる。 ◇意味を確かめつつ物語をなぞる。 ○「言う」との違いを動作で考えさせる。 ○教科書のイラストや動作を用いて説明する。 ○出征の意味にも触れる。 ○出征の様子画像を見せる。死んでしまうかもしれない危険な戦争に行くのに、悲しい顔はできない。国のために戦う兵隊として送り出される当時の状況を伝える。	A
3 グループに分かれて音読劇をする。(P14の1行目~P15の11行目) ① 教師が音読の範囲を読む。 ② 登場人物の気持ちをグループ全体で話し合う。	○画像を見せる。 ○教科書巻末「気持ちを表す言葉」から選ばせる。 ○かげおくりをしたちいちゃんとお兄ちゃんの気持ちをグループで考え、「すごうい。」の音読に生かす。 ◇「すごうい。」はどのように読めばいいか問う。 ◇明日出征するお父さんとお母さんの気持ちをグループで考え、音読に生かす。 ○「お母さんの気持ちは、…だと思ひます。なぜなら、～だからです。」「〇〇さんの意見と同じです。」「私は、〇〇さんとは違ひて、…だと思ひます。なぜなら、～だからです。」のモデル文を提示する。	A	

	<p>くきます (p17) から、いかに火災が激しく、人々は逃げることに必死であったのか考える。</p> <p>・「たくさんの人たちの中でひとりぼっちでねむりました。(p.19)」の表現から、ちいちゃんの気持ちを考えホワイトボードに書いて発表する。</p> <p>4 「広いそらは、楽しい所ではなく、とてもこわい所にかわりました。(p.16)」の意味を確認する。</p>	<p>見失って離れ離れになった) ことを確認する。</p> <p>○気持ちを表す表現と話型を提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「私は、ちいちゃんは○○だったと思います。なぜなら、…だからです。」</p> </div> <p>◇空襲によって空から爆弾が降ってきて、ちいちゃんが家族と会えなくなってしまったことを確認する。</p>	
3	<p>1 第1・2場面の復習をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 5px 0;"> <p>第3場面のちいちゃんの気持ちを想像しよう。</p> </div> <p>2 第3場面の言葉の意味を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はず向かい (p.20 L2) ・やっとこらえて (p.20 L4) ・やけ落ちて (p.20 L11) ・ぎつろう (p.21 L8) ・ほしいい (p.21 L9) ・ぼうくうごう (p.21 L11) ・かじる (p.22 L1) <p>3 第3場面のちいちゃんの気持ちを考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 音読を聞く。 ② グループにわかれて、ちいちゃんが置かれた状況や、言葉から、ちいちゃんの気持ちを考える。 ③ 「ここがお兄ちゃんとあたしの部屋。」と、焼け落ちてなくなった家でちいちゃんが言った理由を考える。 ④ はず向かいのおばさんに、お母さんたちが返って来るのか聞かれたときに、ちいちゃんが2度「深くうなずいた」理由を考える。 ⑤ ほしいいを、少ししか食べなかったちいちゃんの気持ちを考える。 ⑥ ほしいいを少しかじり、こわれかかったぼうくうごうで一人でねむるちいちゃんのセリフを考え、ホワイトボードに書く。 <p>4 全員でちいちゃんのセリフを発表し合う。</p>	<p>○絵を用いて、第1・2場面の出来事を振り返る。</p> <p>○「やける」と「やけ落ちる」の違いをイラストで比べ、はっきりさせる。</p> <p>◇写真を用いて、当時の食事のひもじさを考えさせる。また、規模の大きさや暗さを伝える。</p> <p>○動作化を通して、児童の理解度を確認する。</p> <p>○デジタル教科書を提示する。</p> <p>◇空襲の次の日の朝、町はずっかりかわり、どこがうちかわからなくなっている。ことを共通認識させる。</p> <p>◇前の日の夜まではあったはずのものが、突然なくなってしまったことを確認する。</p> <p>○普段どんな時にうなずくのか問う。</p> <p>○ただうなずいたのではなく、「深く」うなずいたことに注目させる。</p> <p>○お母さんたちだけでなく、家も失ったちいちゃんの気持ちを表すための言葉をいくつか提示する。</p> <p>◇戦争で食料が少なく、一日のうちほとんど何も口にできなかったちいちゃんは、おなかがとてもすいていたであろう。</p> <p>◇お母さんたちとはぐれ、家を失い、おなかもすいている幼いちいちゃんが何を思っているのかを言葉で表現する。</p> <p>○学習したことを活かして、理由もつけて発表させる。</p>	A A A A

令和3年度 第3学年 日本語学級「ちいちゃんのかげおくり」ふりかえり

児童 の 様子	≪日本語学級での様子≫ 【1時間目】 ○戦争を題材にした教材を学ぶため、実際の戦争下の人々の様子を使用したところ、ほとんどの児童は戦争についての知識がないようで話をよく聞いていた。 ○学ぶ意欲は高く、わからない言葉に「辞書を使おう」と声が上がった。 ▲物語の登場人物の気持ちを予測する活動で、「元気」と「元気づける」の違いを分かっているようにであった。「まばたき」も、「目をこすること」と混同している児童がいた。 【2時間目】 ○修飾語の学習は、積極的に文章を作っていた。 ○主語述語に関しては自信を持って回答していた。 ○ちいちゃんが空襲で家族とはぐれたときの気持ちを、子ども達は、親とショッピングモールではぐれた時の経験と重ねていた。 ▲ちいちゃんのかげおくりは、第一場面を音読したが集中力がなくうまくつなげなかった。 ▲戦争に関する題材であるが、昔の話としてとらえ、当時の生活の厳しさや戦争のむごさに対してどこか他人事のようにだった。 【3時間目】 ○戦時中の食事を紹介した際には、大変興味を示していた。 ▲音読だけでは話がつかめていないようにであった。 ▲最初になぞなぞを取り入れ、楽しい雰囲気ですべての授業を始めたが、集中力はなかなか続かず、活発な話し合いはできなかった。 【4時間目】 ▲集中している児童とそうでない児童で言葉への理解度が違った。 ≪在籍学級での様子≫ ○言葉の意味を少しずつ理解しつつある。気持ちや様子を表す言葉を問うと、自信満々に発表する児童がいた。	
	一時間目	成果 ○映像を見たことで、戦争のむごさが伝わったようで、焼夷弾の説明に「やめて！」という反応があった。 課題 △視覚支援が足りなかった。音読する箇所とモデル文を細かく指示できなかった。 →あらかじめパワーポイントにわかりやすく指示を書く。
二時間目	成果 ○登場人物の気持ちを自分の経験と重ねて考えることで想像しやすいようになった。また、気持ちを表す言葉を並べて選択できるようにしたことで、発表のしやすさに繋がった。 課題 △戦争の状況を理解できていない。 →限られた時間の中での効果的な動画資料の準備を行うとともに、登場人物の行動の中から特に考えさせたい部分を厳選し、じっくり気持ちを考えられる	

		ようにする。
三時間目	成果	○動作を実際にして、登場人物の気持ちと重ね合わせたことで理解が深まった。
	課題	△気持ちを考えることが難しかったようだった。 →扱う文章の量が多かったのかもしれない。考えさせる部分を厳選し、動画を用いたり、動作化を行ったりしながら意味理解を深め、気持ちを考えられるようにする。
四時間目	成果	○役割分担をして朗読を行ったことで、声が重なって楽しく影送りをする様子が伝わった。
	課題	△文章を作る活動では、言葉の意味とは違った意味で文を作った児童もいた。 →繰り返し言葉の意味をアウトプットする学習をする。